



Title	Passing into the Darkness : Sexuality, Race, and Integration of the Segregated in the Works of the Southern Renaissance [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	松井, 美穂
Citation	北海道大学. 博士(文学) 甲第11178号
Issue Date	2014-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/55345
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Miho_Matsui_review.pdf (審査の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学） 氏名：松井美穂

審査委員	主査	教授	瀬名波栄潤
	副査	准教授	竹内 康浩
	副査	教授	高橋 英光

学位論文題名

Passing into the Darkness:

Sexuality, Race, and Integration of the Segregated in the Works of the Southern Renaissance

(南部ルネサンス文学におけるセクシュアリティ、人種、そして越境する主体)

審査経緯は以下の通りである。

平成 25 年 12 月 13 日	審査委員会発足	
平成 25 年 12 月 16 日	第 1 回審査委員会	論文の配布と審査日程の調整
平成 26 年 1 月 20 日	第 2 回審査委員会	論文内容の検討と問題点の整理
平成 26 年 1 月 24 日	口頭試問の実施	
平成 26 年 1 月 24 日	第 3 回審査委員会	口頭試問の内容検討と評価、学位授与の判定
平成 26 年 1 月 28 日	第 4 回審査委員会	審査結果報告書（案）の検討と確認（1）
平成 26 年 1 月 31 日	第 5 回審査委員会	審査結果報告書（案）の検討と確認（2）
平成 26 年 2 月 3 日	第 6 回審査委員会	審査結果報告書の確定

審査要旨

本論文では、アメリカ南部ルネサンス期（1920年代～50年代）の白人作家が、人種的他者の視点を内包する二重の視点（double vision）を通して南部社会を表象することで、南部で自明のものと思われているホワイトネスを解体し、南部社会の虚構性を問い、あらたな（ジェンダーとセクシュアリティを含めた）性的、人種的主体を模索していったことを論じる。

論文は4章からなる。まずイントロダクションで、論の前提として、南部社会においてホワイトネス／ブラックネスの差異を構築する重要な要素はセクシュアリティであること、従って南部ではセクシュアリティの境界を監視することは、人種の境界を監視することと深く結びついていたことを説明している。

第1章では、これまで南部ルネサンス作家のキャノンとはみなされていなかった二人の女性作家 Frances Newman と Julia Peterkin について論じている。女性のセクシュアリティを通してブラックネスの領域に越境することで白人男性中心の社会規範の解体を試みたこと、また白人女性として抵抗のための「声」を獲得する様子を説明し、埋もれた女性作家の再評価を成し遂げている。

第2章では、南部ルネサンス文学の一つの大きな特徴である「グロテスク」について再考し、ここで取り上げる作品が描く「グロテスクなもの」は実は、人種差別を基盤とし一見秩序だった規範

的南部社会こそがグロテスクであることを暴露する「グロテスク」であり、そういった意味ではこの「グロテスク」は subversive かつ liberatory なものであることを主張している。

第3章では、William Faulkner の作品において最も南部の伝統に捕われている人物 Quentin Compson を通して南部白人男性の黒人性（の構築性）を考察する。ホワイトネスは常にブラックネスに浸食されているのであり、Quentin において表象されているのは、南部白人男性という安定したアイデンティティの虚構性であることを論じている。白人南部男性作家の有色性を巡る挑発的な批評である。

第4章では、南部社会の規範から逸脱した人物（ホモセクシュアルである南部軍人、トムボーイである南部少女、男性的な独身女性）を通して、Carson McCullers がいかに規範的アイデンティティを超えて新たな性的、人種的主体を模索したかを論じている。これも第1章同様に、過小評価されて来た南部女性作家再評価の試みである。

結論部では、南部の白人中心の人種的アイデンティティの構築は、ホワイトネスの領域から排除したものを黒人に投影することで成り立っていること、従って、黒人の他者性とはそもそもホワイトネスの一部であることを指摘する。そして、本論で取り上げた作家は、厳しい人種隔離の時代において、また、南部農本主義者が solid な南部社会を主張していた時代において、白人こそがホワイトネスというものに幽閉されているということを感じし、その文学表象を通じて「他者とは私の一部である」という認識こそが解放の契機となりうることを示唆していると指摘する。換言すると、ジェンダー・セクシュアリティの観点から、アメリカ南部ルネサンス文学の歴史を再構築している。

審査結果

本論文は、南部ルネサンス期の作家が人種・ジェンダー・セクシュアリティの境界を越えて作品を創出しているという極めて反南部的な振る舞いを解明する試みである。これまで、南部が純粋な南部であるために暗黙のうちに作られた領域「白人性」を前提として、多くの研究者は批評を展開して来た。しかし、氏は白人の男性作家や女性作家もしくは彼らの白人主人公が、実は主体である自らを客体に侵食する・させる行為により、自らのアイデンティティを形成するだけでなく、南部そのものを作り上げていると言う。

口頭試問では南部逃避派（フュージティヴズ）批評家と南部作家の影響関係についての質問があった。さらに作品の分析に関して一つの事象を深く掘り下げるだけでなく、他の出来事や他の作品との関連性を考慮する必要がある巨視的指摘もあった。しかしながら、それらは今後の研究課題としての氏への期待を示すものであり、本申請論文は学位を得るにすでに十分な水準に達していると、本審査委員会は判断した。したがって、申請論文の慎重な審査と口頭試問の結果に基づき、全員一致して松井美穂氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であることを認定する。